

週刊

学びのコミュニティ

第52号

平成22年5月26日発行



【紹介】

今回は学びのコミュニティ活動として行っている、『読書会』及び『学びのコミュニティ主催の研究会』についてご紹介いたします。

社会人・学生・教員の3者でつくる学びのコミュニティとしてこれまでいろいろと企画があったが、今回は、私が企画している読書会と学びのコミュニティ主催の研究会について紹介したい。

読書会は21年度の11月から毎月第1木曜日の3時から行っている。中心的な参加者として想定しているのは、初年度の学生である。テキストを選ぶときの基準は、一見、倫理的・規範的に一般解がでてるように思われる事柄を問い直しているような内容となっているものである。また具体的な事例が豊富で、論理の組み立て方が明確なものを選んだ。つまり議論するとき、テキストに



対して、参加者本人の具体的な体験や知識から評価したり批判したりすることがしやすいものであることも選択の基準である。

いくつかピックアップすると東浩紀・大澤真幸「自由を考える」NHK ブックス、河原和枝「子供観の近代」中公新書、橋爪大三郎「心はあるのか」ちくま新書などである。

今後は参加者の増大を目標に、がちがち議論するのではなく、複数の分野のテキストのなかから、参加者の方が自由にグループを選択し、話し合いを進めていってもらうような形態に変えていこうと思っている。

続いて学びのコミュニティ主催の研究

会では、「ちょっと気になるあの学問の見方を知りたい」ということで、様々な学問の生まれた背景を、実験や体験を通してその学問の基本的なものの見方を学ぼうという企画である。研究会ではその専門の先生



を招いて、一緒に実験や探索をしながらお話していただいている。1月には佐野勝徳先生に「心理学的測定による人間理解」ということでお話いただいた。この研究会も初年度の学生を念頭に置いたものだが、まだ専門を決めかねている学生にとっての学問的地図になることや、すでに専門に入っている学生で他の学問との接点あるいは境界を理解してもらうのに役立てればと思っている。

私の学生時代、専門は社会学であるが、ある社会現象を説明したいという動機で研究していても、社会学から研究するということはどういうことなのか、それがなかなか分からなかった。経済学や哲学、心理学など、また文学やさまざまな本を読んで、なかなかつかめない「社会的な発想や研究の動機」をつかもうとしていたと思う。

学問的立ち位置のことなど簡単に分かるものではないが、卒論を書いて卒業する徳大すべての学生に、自分の研究を控えめでもいいから満足いくものを書き上げてもらいたいと願っている。

(中恵 真理子)



恋のうた学習会

～ご参加ありがとうございました!!～

平成 21 年度 11 月 20 日から

平成 22 年度 5 月 21 日まで全 14 回



5 月 21 日（金）、最終回に大勢の方が集まってくださいました。まず、いつものように万葉集から恋のうたを 3 首取り上げ、解釈していきます。司会進行役、この学習会の主催者である総合科学部 4 年生の的場くんの “あなたの色は何いろですか？また、恋をした時の色はどんないろでしょうか？” との問いかけに、しばし頭を悩ませる参加者のみなさま。 “自分のカラーなんて考えたことなかったけど…好きな色を考えると…恋をした

ら…” と、少し照れながら自らを振り返って語ってくださいました。その後も楽しい議論は尽きることはありません。

更に今回は特別に、最終回ということで、『人気うた投票』の結果発表が行われました。これまで詠んできたうたの中から、予め好きなうたを選んでいただき、それらを集計しました。ちなみにみなさまが選んでくださった、人気投票 1 位のうた（3 作品同率）は以下の通りです。



あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る 額田王



うちひさす 宮道を人は 満ち行けど 我が思ふ君は ただひとりのみ 作者不詳



君が行く 道の長路を 繰り畳ね 焼き亡ぼさむ 天の火もがも 狭野茅上娘子

そして、最後に…主催者の的場くんから参加してくださったみなさまにプレゼント…『恋のうた詠み会』においてご自分で詠まれたうたと、それぞれのお気に入りの一首を葉にしたもの。それから、みなさまへのお手紙。封筒から出てきたこれ

らの贈り物に、参加者のみなさまからは思わず笑顔がこぼれました。

みなさまの心に、葉と共にこの学習会が心に残ることを願って…ご協力本当にありがとうございました!!



～参加して下さったみなさまへ～

万葉集をもとに皆さんと一緒に「恋」についていろいろと話に花を咲かせたこと、一生忘れられない素敵な思い出となりました。この思い出は僕の宝物です。

この様にどの学習会にも負けない素敵な学習会となったのも、皆さんのおかげだなとつくづく感じています。

またどこかで「恋のうた学習会」の僕の“同級生”にお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

的場一将

この会に 集ひし我ら 同級は 恋の奥義を 極めたりけり 若恋(じゃくれん)[2010年5月21日]

～編集後記～

みなさんに愛された学習会の最終回。最後に “みなさんで写真を撮りましょう” との呼び掛けに “そうね！同級生ですものね！” と弾む笑顔。同級生一同じクラス（学習会）で学んだ仲間—その言葉の持つはつらつとした響きにはっとしました。いくつになっても学べる、世代を超えて一緒に学べる、そんなことに改めて気付かされるきっかけになりました。（境）

